

大会宣言

私たちは本日、「東武ホテルレバント東京」で第22回定期大会を開催し、新年度の運動方針と新たな役員体制を満場一致で確認した。

JR連合は、昨年結成20年を迎え、今日までの成果と課題を確認し、新たな歩みを始めた。最優先課題である安全確立にむけた取り組みについては、JR福知山線事故や羽越本線事故をはじめとする惨事を絶対に風化させないことは言うまでもなく、重大インシデントや重大労災事故が未だ発生している現状を真摯に受け止め、とりわけ「すべてのJR関係労働者の死亡事故・重大労災ゼロ」をめざし、グループ会社、協力会社を含めた働く者の手で実効ある運動を着実に進めることとする。

交通政策については、高速道路料金問題や防災・減災対策などの喫緊の課題に取り組むとともに、人口減少、高齢化そして過疎化などを踏まえた、将来のJRを見据えた中長期政策課題解決にむけて、昨年発足させた3つのプロジェクトを中心に、これまで以上の政策提言、そして政策実現力を発揮することとする。また、労働政策については、雇用や労働条件の向上、ワーク・ライフ・バランスの実現にむけ、とくにグループ労組、非正規組合員への対応を重視して精力的に取り組むこととする。

また、民主化闘争については、JR浦和電車区事件裁判の完全勝利を踏まえ、徹底した組織拡大・強化を図り、JR総連との対立軸を鮮明にしながら、広範なJR労働者の共感を勝ち取り、JRへの革マル派浸透問題を一日も早く解決し、JR労働界の一元化という最終目標にむけて、確固たる決意と戦略を持って闘いを展開することとする。

民主党政権に替わって登場した安倍政権は、「アベノミクス」効果で順調に景気回復が進むことが期待され、高支持率を維持してきたが、昨今株価が乱高下し、円相場も極めて不安定な状況が続くなど、日本経済の先行き不透明感は解消されていない。また、賃金引き上げなど労働者への公正配分は一向に進まない一方で、非正規労働者も増加傾向に歯止めがかかっていない。格差の拡大は社会の歪みを生み、大きな社会問題となっており、健全な社会勢力としての私たち労働組合の役割は高まっている。こうした中で実施される第23回参議院議員選挙では、連合が提唱する「働くことを軸とする安心社会」実現にむけて、全組合員が総団結し、一人でも多くの民主党議員の当選を果たさなければならない。

これらの多くの課題に対して、JRの代表産別としての責任と自覚をもって、本大会の議論を踏まえて、組織をあげて運動を積極果敢に展開していく決意を表明する。

以上、宣言する。

2013年6月19日

日本鉄道労働組合連合会（JR連合）
第22回定期大会